

- 1 開催日時 平成26年6月25日(水) 10時00分～12時10分
- 2 開催場所 宇都宮市教育センター1階 コミュニティホール
- 3 出席委員 17名
増渕委員長, 大矢副委員長, 竹内委員, 伊藤委員, 橋本委員, 中山委員, 吉田委員,
池田委員, 松田委員, 坂本委員, 赤坂委員, 長谷川委員, 森野委員, 久保井委員,
齋藤委員, 岸委員, 宇賀神委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
 - (1) 平成26年度生涯学習センター運営審議会の審議内容について
 - (2) 宇都宮市民大学運営協議会への委員推薦について
 - (3) 平成27年宇都宮市成人式の日程等について
 - (4) 平成25年度生涯学習センター事業運営の評価について

7 発言の要旨

増渕委員長	それでは、議事に入りたいと思います。 議事の1番目、「平成26年度生涯学習センター運営審議会の審議内容について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	【資料について説明】
増渕委員長	はい、ありがとうございました。只今、議事の1番目「平成26年度生涯学習センター運営審議会の審議内容について」事務局からの説明をいただきました。今年度の審議内容と併せまして、社会的課題に即応した学習提供につきましてもご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。
	はい、岸委員お願いします。
岸委員	1つ目は、資料1の裏面の「日本における社会情勢の変化」の中に、「雇用環境の変容」とありますが、「非正規採用」「派遣社員」というキーワードも付け加えるべきだと思いました。 先日の新聞に2013年度の国民年金の保険料の記事が載っており、国民年金の納付率が2013年度で60%台ということです。近年は無職者

や非正規労働の加入者が増え、経済的な理由から払えない人が多いと出ています。

60%台に復活したといっても、所得が低く、納付の全額免除や猶予を受けている人が加入者全体の3分の1の600万人いるということです。それを除外しますと、実質的な納付率が40%台となります。本県の納付率は58.5%で、全国での順位が40位だということです。

このようなことを考えますと、「非正規採用」や、「派遣社員」ということも付け加えた方が良いのではないかと思いました。

もう1つは、同じく資料1の裏面の「宇都宮市における社会情勢の変化」の中に、「全市民が安全で快適に暮らすことができる環境にやさしい都市づくり」とあります。「特殊詐欺」や「振り込み詐欺」について、新聞の記事によると、今年の1月から3月までの短期間で、栃木県の被害額が4億8千万円と全国でワースト7番ということです。その記事には、宇都宮市の60代の女性が1億5千万円をだまし取られ、過去最多の被害額と出ております。

被害にあった方のその時のショックと、これからの人生がどのようになるのかを考えると他人事ではなく、詐欺の被害者をできるだけ少なくするというに関係機関が支援をすべきと思いますので、「特殊詐欺」「振り込み詐欺」についても追加していただければと思いました。

増渕委員長

ありがとうございました。只今、岸委員からのご意見がございましたが、「社会教育委員の会議」へこちらからの提案や意見というのは出せるのかどうかお尋ねします。

事務局

はい、「社会教育委員の会議」につきましては、何回か協議を重ねていく予定ですので、本日いただきましたご意見は、「社会教育委員の会議」にお伝えし、反映するような形で進めてまいります。

増渕委員長

はい、それでは岸委員。付け加えたいことがあるとのことですので、お願いします。

岸委員

5月の下旬から6月11日にかけて、私の所に特殊詐欺の電話が6件ありました。警察に連絡をしたら、「136」に電話したらどうですかと言われてました。

「136」に電話をしますと、NTT回線の方は、直前にかかってきた電話番号がわかるということです。かけてみた所、残りの5件のうち1件については電話番号がわかりましたが、4件は非通知ということで、電話番号がわかりませんでした。警察の方から、非通知の電話がつかないように設定をしたらどうですかという話がありました。

非通知の電話は振り込み詐欺や、特殊詐欺の電話である可能性が高いの

で、非通知の電話については注意するように、広報紙や自治会の回覧に案内を載せるなどの方法を検討した方が良いと思います。

増渕委員長

岸委員から2点ありましたが、「雇用環境の変容」に関しましては、色々な社会的事情もありますが、「非正規採用の問題」あるいは、「派遣社員の問題」ということも個々に検討をしていただきたいということと、「安全で快適に暮らすことができる環境にやさしい都市づくり」としては、詐欺に対する対応の仕方など、誰にでもわかるような方法があれば、それも市民に周知徹底しても良いのではないかと、何らかの広報活動をご配慮願いたいというお話でした。

続いて、坂本委員お願いします。

坂本委員

私がお願いをしたいのは、児童の教育についてです。

私の地域では、家庭内暴力や不登校の生徒がいます。学校の中で、家庭内の状況を何らかの方法で知り得ることが出来ないだろうかと思っています。子ども達に色々聞き出すのは難しいとは思いますが、何らかの形で子ども達の家庭、親、あるいは兄弟の状況についてどのような状態にあるのかを聞き出す方法を十分検討し、状況を把握していただければ良いと考えています。

増渕委員長

はい、ありがとうございました。学校関係者である齋藤委員いかがでしょうか。

齋藤委員

私は小学校になりますが、まず1つ目に、家庭内のことをいかに知るかということですが、個人情報保護法が制定されてから、学校も家庭のことについてはあまり細かなことは聞けなくなりました。

緊急連絡先の登録も、固定電話ではなく携帯電話ということも多々あります。そのため、子どもが怪我をしたとか、病気になったという時でも、連絡がとれないケースが増えてきているようです。

学年が下であるほど家庭の様子を話してくれるかと思いますが、高学年になると、口をつぐんでしまうようになります。中学生になれば、ますます話したくないのではないかと思います。

小学校においては教育相談週間、あるいは、教育週間・月間というものを設けて、子どもと1対1で話をし、気になることや困っていることなどを聞き取る時間を設けており、何かある場合は、その先につなげていくことができます。

不登校の件に関しては、まさに、ケース・バイ・ケースです。

お子さんが何に対してストレスを感じているのか、学校の友達とのトラブルなど、きっかけは様々であり、個々に対応するのが現状ですが、学校全体として、学校の中が安全・安心で、居心地の良いクラスを作るという

取り組みは始まっております。不登校の児童を出さないような学級経営、学校経営が大切だと考えています。

また、最近、学習や人との関わりに困難を抱えているお子さんが増えてきています。昔も、授業を受けることが難しい子が2～3人はいましたが、今は、どの学級にもかなりの割合でいるといわれており、特別な支援を要するお子さんは各クラスに6%ぐらいはいるといわれています。適切に対応すれば、その子も普通学級でやっていけますが、なかなか難しいお子さんがいることも事実です。

そのようなお子さんに対しては、保護者の方も困っており、小さい時から育てにくさを感じているといわれています。社会教育の中で、そういうお子さんの育て難さをサポートしてくれる取り組みがあると、お母さん方も安心して育てられると思います。

増渚委員長

ありがとうございました。学校現場にいらっしゃる齋藤委員より、家庭内と不登校の問題について、そして、現在学校が抱えている問題についてご説明いただきました。

子育て支援という問題について、今後、「社会教育委員の会議」に、生涯学習センター運営審議会でも同じような問題を深刻に考えているということをお伝えいただければと思います。

それでは、久保井委員お願いします。

久保井委員

私は保育士をしていましたが、現場はとても大変です。保護者と直接関わることで、家庭の中というものがよく見えてきます。

障がいを持っているお子さんについては、どのように次の機関につなげていくべきか問われます。今は、近所付き合いが疎遠であり、祖父母が近くに住んでいない場合が多いため、保育園はアドバイスを求められます。

保育園はお子さんを1人や2人見ているわけではなく、たくさんのお子さんをお預かりしています。今は、待機児童ゼロに向けてたくさんのお子さんを入園させます。もちろん待機児童ゼロは良いのですが、見る側としては大変です。保育士の配置について検討していただきたいと思っております。

増渚委員長

ありがとうございました。

続いて、吉田委員お願いします。

吉田委員

「雇用環境の変容」の中に、「非正規採用」「派遣社員」について追加していただきたいという件について、「終身雇用」や「年功序列」という言葉だけで説明するということは、少し不足していると思いますので、先程、岸委員がおっしゃったとおり、追加するのが良いのではないかと考えております。

また、子ども達の家庭内の情報についての話がありましたが、民生委員、児童委員としての立場で申し上げますと、民生委員については、50世帯から70世帯に1人という、少ない状況になっており、家庭内の情報を収集することは難しいのが実態であります。

このような中、最も情報収集ができるのは「近所」です。昔は向こう3軒両隣といわれていましたが、ご近所からの情報が、学校あるいは地域の児童相談所や教育委員会へ提供されるかという点、そうではありません。

なぜかという点と本当に虐待なのか、しつけなのか、あるいは単純な夫婦喧嘩なのか、ご近所では判断できないことから、二の足を踏んでいるということが実態だと思います。

行政では、虐待などを見かけた場合は通報をするよう、積極的に案内をしており、我々も、生涯学習センター運営審議会委員の立場として、地域に対してもっと積極的に働きかけをしていかなければならないと考えております。

増渚委員長

ありがとうございました。
それでは、宇賀神委員をお願いします。

宇賀神委員

まず1つ目に、現在、人材かがやきセンターで実施している「宮の朝活」の参加状況について教えていただければと思います。

2つ目に、「生涯学習コーディネーター制度の見直し」について、どのような進捗状況であるのかお尋ねします。

事務局

「宮の朝活」につきましては、就労世代である20代から40代を対象とし、社会的課題や参加者が知りたい事柄について、5回にわたり講座を開催しているところです。

出席状況につきましては、定員40名のところ、55名の応募となりました。第4回目まで終了しましたが、概ね30名から40名程度の出席状況であり、今週の金曜日が最終回となっております。

増渚委員長

前年度から開催しており、大変人気があるということでしたよね。

事務局

毎回募集定員を超える応募があり、積極的に参加をいただいております。

また、「生涯学習コーディネーター制度の見直し」につきましては、10月の当運営審議会において付議する予定となっております。

増渚委員長

たくさんのご意見をいただきましてありがとうございます。他の議事もございますので、次に進みたいと思いますが、よろしいでしょうか。

「宇都宮市民大学運営協議会への委員推薦について」事務局より説明をお願いします。

事務局	<p>【資料について説明】</p>
増渕委員長	<p>この会議の委員の中から宇都宮市民大学運営協議会の委員を選ぶということですので、何かご提案ありますでしょうか。</p>
吉田委員	<p>事務局案があれば発表していただき、それについてご審議いただくのが良いのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。</p>
増渕委員長	<p>はい、ありがとうございました。 吉田委員のご提案でよろしいでしょうか。 それでは、事務局案がございましたらお願いします。</p>
事務局	<p>事務局案ですが、昨年度、当運営審議会から長谷川委員を推薦させていただきます、ご協力をいただいております。 引き続き、お力添えをいただければと考えております。よろしくお願ひします。</p>
全員	<p>異議なし（拍手）</p>
増渕委員長	<p>それでは、委員の皆様から拍手をもって承認していただきましたので、異議なしということで、長谷川委員にお願いしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。 続いて、議事の3番目ですが、「平成27年宇都宮市成人式の日程等について」、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【資料について説明】</p>
増渕委員長	<p>前年度の会議で、竹内委員と橋本委員より、明保野体育館での成人式開催についてご意見をいただきました。今年度は明保野体育館がなくなっていますが、事務局で苦勞された点など、何かございますか。</p>
事務局	<p>3月の当運営審議会ではご意見をいただき、ありがとうございました。 3月の教育委員会において、日時と会場について決定させていただいたところがございます。新成人が混乱しないよう、ホームページなどで早めに周知を行っております。 式典の内容や、各実施委員会に対する交付金の金額などにつきましては、これから内容を詰めていくところですが、皆様からご指摘やアドバイスをいただき、早い時期に会場を決定し、周知することができましたので、今回ご報告させていただきます。ありがとうございました。</p>

増淵委員長 何かご意見ありますでしょうか。
はい、坂本委員お願いします。

坂本委員 毎年成人式を行っていますが、費用に関することが全く開示されていないと思います。市の方ではどの程度の予算を確保し、どの程度支出しているのか、また、学校ごとに協賛金などをいただいている地区があるのかどうか、ご説明いただければと思います。

事務局 各成人式実施委員会への交付金ですが、只今算出中であり、7月の教育委員会への付議を考えております。次回の会議においてご説明をさせていただきます。

坂本委員 参考までに、26年の状況はわかりますか。

事務局 25中学校区に支出しました市の交付金が約1,900万となります。今年度の予算は2,050万程度を確保しています。また、地域の企業等からの協賛金収入は、150万程度の状況です。

森野委員 会場が選定されたようですが、駐車場の問題を考慮して選定していると思いますが、いかがでしょうか。

事務局 街中のホテルについては駐車場が少ないため、来賓の方々の駐車場は確保しておりますが、新成人の方については、送迎や公共交通機関等をご利用していただくというスタンスでご案内をさせていただいております。

森野委員 私も成人式に関しては、20数年間係わってまいりました。小学校あるいは中学校の体育館で行ったという歴史を踏まえ、ホテルを利用するようになりました。
小学校あるいは中学校の体育館の寒さの中で成人式を行うのは非常に環境が悪く、成人者が会場に入らない、入ったと思っても座らない、座ったと思っても私語が多くて式典にならないなど、私は司会を通してそのような経験をしてまいりました。その後、ホテルに会場が移り、かつての成人式とは違う厳粛な雰囲気ですmoothに行われてきたという経過があり、大変嬉しく思っております。
市の担当者の方々のご苦労もわかりますので、会場を決めていただくことはよろしいのですが、例えば、私ども陽南中学校区の会場については近くにグランドホテルがあり、駐車場が完備され、式典の会場も広く、非常に良い環境で実施できましたが、昨年から別の会場となりました。
会場の交渉についてはどのように行っているのかお聞きしたいと思います。

す。宇都宮市の成人者のお祝いの式典ですので、ホテル側も積極的に協力をしていただけるものだという理解をしたいのですが、市の対応について、ご説明いただければと思います。

増渕委員長 はい、会場決定に関してどのような方法や考え方をしていますかということですので、事務局お願いします。

事務局 ホテル側への予約については、金額についての具体的な交渉の前に、日にちをお示しして、会場が使用できるかどうかお伺いし、予約しております。

今後とも各ホテルにご協力いただけるよう進めてまいります。

増渕委員長 事務局も非常にご苦労されているということを知ったことがありますので、我々にも何かサポートできることがあれば是非おっしゃっていただければと思います。

他に何かご意見ありますでしょうか。

はい、竹内委員お願いします。

竹内委員 私は2年間、陽東地区の成人式に係わってまいりました。

来年の成人式では、陽東中学校の卒業生と一緒に、宇都宮東高等学校附属中学校の卒業生が初めて成人を迎えることとなります。

昨日、陽東地区のまちづくり協議会の全体会があり、その席で「今回は宇都宮東高等学校附属中学校の卒業生も一緒ですよ。」ということをお伝えしましたら、皆さんびっくりされていました。

来年の成人式からは、陽東中学校の卒業生だけではないということを知っていただけるような努力をしていかなければならないと思いましたが、発言をさせていただきました。

増渕委員長 はい、ありがとうございました。事務局で考慮したことは何かありますでしょうか。

事務局 色々な機会を通して、陽東中学校の関係者の方のもとより、地域の方に対して、宇都宮東高等学校附属中学校と一緒に成人式を行うことについてご説明していきたいと思えます。

増渕委員長 成人式は委員の皆様にもご出席をいただきますので、ご協力のほどよろしくをお願いします。

それでは、議事の4番目に移ります。「平成25年度生涯学習センター事業運営の評価について」、事務局より説明をお願いします。

事務局	【資料について説明】
各生涯学習センター所長	【平成25年度の事業実施報告と課題への対応策について説明】
増渕委員長	<p>本日ご出席の各生涯学習センター所長より、平成25年度の事業実施報告と課題への対応策についてご説明いただきました。</p> <p>委員の皆様からご意見などがございましたらお願いします。</p> <p>はい、伊藤委員お願いします。</p>
伊藤委員	<p>まず確認ですが、この講座の回数の中に、地域コミュニティーセンターや人材かがやきセンターなどの講座は含まれていないと解釈してよろしいでしょうか。</p>
事務局	はい。
伊藤委員	<p>次に、提案が2点あります。</p> <p>まず1つ目は「区分」についてですが、「青少年対象事業」と「子育て世代対象事業」の2つが、今後、生涯学習センターとして取り組むべき事業課題であると考えており、その事業の定義が明確になっていないように感じます。</p> <p>例えば、「青少年対象事業」という文字だけを見ますと若者向けという解釈をしますが、内容を見ますと小学生以上が対象になっており、小学生の保護者も参加人数に含まれているという状況になっています。</p> <p>それから、「子育て世代対象事業」については、子育て中の親を対象とした講座だと思います。</p> <p>例えば、9ページ3番目の「子ども映画鑑賞講座」については、「子育て」という分類になっていますが、この講座は「青少年対象事業」に含まれるべきものではないかと考えます。</p> <p>このように、各生涯学習センターが「子育て世代対象事業」なのか、あるいは「青少年対象事業」なのか、その区分がはっきりしていないところがあるのではないかと考えますので、ご検討いただけないでしょうか。</p> <p>また、2番目の提案事項についてですが、「子育て世代対象事業」の延べ参加者数が9,401人と多く、このことは大変良いことだと私は感じています。ところが、ここには3歳未満の乳幼児も含まれています。</p> <p>このような子どもの数まで含めてしまうと、統計の数字で判断する時に誤解が生じると思いますので、もし乳幼児の数を含めたいと考えるならば、親が何人で、子どもは何人というように分けて集計をした方が参考になると思います。</p> <p>もう1つ、講座1回あたりの参加者数なども入れますと、今後どのよう</p>

な対策をしていけば良いかという議論に発展していくと思います。

最後に質問ですが、2ページ目の中央生涯学習センターの「子育て世代対象事業」の延べ参加者数についてですが、平成24年度の786人に対し、平成25年度は1,544人と倍増していることとなります。もちろん実施回数と講座数は若干違いますが、これだけ人数が倍増したということは大変喜ばしいことであると思います。このような結果になったのは、何らかの工夫があったのではないかと思いますので、その工夫をお聞かせ願いたいと思いますのでよろしくお願いします。

増渕委員長

はい、ありがとうございます。「青少年対象事業」あるいは「子育て世代対象事業」、「成人対象事業」に関しましてもそうだと思いますが、どのような定義付けをするかが曖昧になっている印象を受けることを含め、今後は、参加者の内訳を把握しておく必要があるというご提案がございました。事務局いかがでしょうか。

事務局

各講座の人数については、詳細な内訳を各生涯学習センターから報告をいただいておりますが、数字をまとめている部分がありますので、次回からは、ご指摘を踏まえまして、お示しいたします。

また、区分についてですが、「青少年」の定義は概ね35歳までを対象とした講座という考えでございます。

一方、「子育て世代」につきましては、教育行政における社会教育と家庭教育支援という大きな柱のうち、家庭教育支援という部分に関する講座であれば、年齢にかかわらず「子育て世代」という分類をしております。

中央生涯学習センター所長

中央生涯学習センターでは、「子育て世代対象事業」として、「子育て広場」と「親と子のワクワク体験講座」という2つの講座を実施しています。

「子育て広場」については、「親子でフィットネス」、「サマーコンサート」、「リトミック」など、親と子のふれあいや、お母さん同士の仲間づくりや、情報交換などを目的とした講座であります。

申し込み方法について、事前申し込みではなく当日参加という方法で実施し、おかげさまで大変好評であり、毎回100名近くの参加者がありました。

平成25年度については、講座の内容的な部分がお母様方に好評であった結果であると考えています。

また、事前申し込みの場合は、定員を超えた場合はお断りをする状況が発生する一方、今回のように当日参加の場合は、友人に誘われて気軽に参加したお母様方がいるなど、その方々がリピーターとなり、参加者が増えたのではないかと考えています。

伊藤委員

1つの集客方法として良いアイデアだと思います。他の生涯学習セン

ターでも事前申し込みという方法ではなく、当日申し込みという方法で講座を企画するのも良いのではないかと思います。

このようなアイデアでこれからの子育て事業を活発にしていければと感じています。

増渕委員長

ありがとうございました。主催者側は、どの程度の参加者が集まるかわからないという問題もあるでしょうし、難しい側面も持っていると思います。今後改善していくべき、あるいは対応していくべき課題として考えているようですので、各生涯学習センターにおいて工夫をし、運営していただければと思います。

大変貴重なご意見をありがとうございました。他に何かご意見ありますでしょうか。はい、宇賀神委員お願いします。

宇賀神委員

私は、生涯学習センターでコーディネーターとして活動をし、色々な団体との共催事業を行っています。

雀宮生涯学習センターでも、地元の工業高校や自衛隊などと連携し、事業を展開しています。各地域には色々な団体がありますので、各団体と共催し、最終的には、生涯学習センターがそれをどうコーディネートするかということが一番の課題であると思います。今後、地域を発展させていくために必要であると、私はコーディネーターというボランティア活動を通して強く感じています。

また、もう1つ話をさせていただきますが、これは城山生涯学習センターにお願いをしたいのですが、昨日、台湾の方を大谷資料館へ案内してきました。城山生涯学習センターでも、これまでに「地域学講座」は開催していると思いますが、国際化を推進していく上での1つの例として、多気山のハイキングなど、地元住民の方にわかりやすいテーマを与えていってほしいと思います。

地域の方は、資料館に来た外国人の方に、地元の情報をお伝えできることが必要だと思います。これは何も城山に限ったことではありませんが、その他の地域におきましても同様であると思います。

増渕委員長

はい、ありがとうございます。地域との連携を重視していくと、成果も出てくるであろうということです。

今後、各生涯学習センターでは、地域の方々のご協力のあり方というものを考える必要があると思います。

それでは、議事の4番目「平成25年度生涯学習センター事業運営の評価について」は終了したいと思います。

以上をもちまして、本日の議事は全て終了しました。皆様には、この会議の進行にいつもご協力いただいていますことを感謝申し上げたいと思います。それでは、事務局の方へお返しします。

事務局

ご審議大変ありがとうございました。

それでは、次第の5番目の「その他」ですが、事務局より連絡事項がございます。

【机上配付のパンフレット，次回の会議日程について説明】

本日は増渕委員長を始め，委員の皆様，長時間のご審議誠にありがとうございました。

以上をもちまして，平成26年度第1回宇都宮市生涯学習センター運営審議会を閉会いたします。